

様式第8号ア

(認定を受けようとする課程を有する大学・学科等における教員養成に対する理念等に関する書類)

(1) 大学・学科の設置理念

①大学

東京農業大学は国内外でも類を見ない農学系の総合大学として、人類生存の基盤となる農業およびその関連産業を支える学問である農学、生命科学、環境科学、バイオ産業学など農学全般の教育研究に取り組んでいる。東京農大精神は「質実剛健」「独立不羈」「自彊不息」で、現代風にいえば「物質主義に溺れることなく、心身ともに健全で、いかなる逆境にも挫けない気骨と主体性の持ち主たれ」ということである。また本学のモットー「実学主義」は、社会が実際に必要とする研究を重視する実用的で実際的な学問のあり方を意味する。

②学科等（教職課程を有する学科のみ）

人類の生存に最も重要な食料・環境にかかわるビジネスの教育・研究を行う。食料の生産、加工、流通、支援サービス、さらには生態系を踏まえた地域環境・資源の分野において持続的な経営発展を推進するバイオビジネスの専門的知識と技術を身につけた国際的人材を養成する。

(2) 教員養成に対する理念・構想

①大学

初代学長横井時敬は「人物を畑に還す」と言った。この言葉通り本学は開学以来全国から若者を集め、地域に貢献する人物となるよう教育してきた。教員養成においても同様で、履修者が卒業後に全国各地で教育者として活躍することを目標とし、この東京農大精神と実学主義のもと、豊かで実践的な知識と技能を身につけた心身ともに健全な教員の養成を目指している。

今日、生命科学は進歩が速く、農学や環境科学には社会からの期待が大きい。本学教職課程ではこのような動向を踏まえ、学部段階では学科の基礎と教員としての基本的かつ実践的な知識と技術を習得させる教育を行う。

②学科等

本学の教育理念である実学の精神を授業に取り入れ、中等教育・高等教育の専門授業や体験授業を指導できる教員を養成する。専門教育と教職教育を有機的に関連づけながら、実学の特色を活かし具体的かつ効果的な指導が可能な、実践的指導力を育成する。さらに、近年、重要な教育問題となっている心の教育や、いじめ、引きこもりなど人間関係に起因する諸問題に対応可能な教員の養成を目指す。生徒から信頼され、尊敬され、豊かな教養や生徒への愛情と理解を持つ教員となるための、コミュニケーション能力、協調性、教育者としての使命感を育成する。

(3) 認定を受けようとする課程の設置趣旨（学科等ごと）

国際バイオビジネス学科は、人類の生存に最も重要な食料・環境にかかわるビジネス（バイオビジネス）の教育・研究を行い、食料の生産、加工流通、支援サービス、さらには生態系を踏まえた地域環境・資源の分野において持続的な経営発展を推進するバイオビジネスの専門的知識と技術を身につけた国際的人材を養成する。具体的には、次のような者の養成を教育目標とする。

- ・国内外の食料の生産、加工、流通、支援サービスに関するビジネスの専門家
- ・地域環境・地域資源の分野において持続的な経営発展を推進する専門家
- ・国内外の食料の生産、加工、流通、支援サービスに関する情報処理技術の専門家

本学科の教育の特色は、本学が農業系総合大学であり理系学部・学科が多い中、社会科学系学科としての独自性を保持し、経営学を中心に情報科学と環境学を連携させ国際的なバイオビジネスの発展に寄与する教育研究を実施する点にある。

情報（高等学校一種）の教職課程に必要な教育システムの概略は次の通りである。

情報（高等学校一種）においては、情報リテラシーにおいて情報倫理教育を徹底して実施し、専門基礎科目であるオペレーションズリサーチや専門科目である情報ネットワーク論、データベース論、プログラミング言語など多彩な情報系科目を設置し、情報に関する専門の知識・技術を修得させる。基本情報処理演習を通じ、高校生の資格として人気の高い基本情報処理技術者の資格取得教育にも配慮する。以上のような科目の他、教職関連の全学共通科目を履修させ、情報（高等学校一種）の教員養成のための教育システム配置している。

<目指す教員像と設置趣旨>

教員は、その教育において人類が蓄積してきた諸価値を伝承し、生徒の育成を通じて人的資源を維持・発展させることで社会に貢献するという使命を担っている。また教員は、可能性を秘めつつも傷つきやすい生徒を支え、希望を紡ぎ、能力を引き出す責務がある。本学の教育理念は、これら教員の使命・責務を机上の空論ではなく実学としてとらえ理解することを目指すものである。本学の実学の精神、本学科の多彩な教育システムを背景に、国際的な視野と教養を持つ教員の育成が本学科の社会的責任であると考え、情報（高等学校一種）の教職課程を設置するものである。